

所属・資格 地理学科・教授

申請者氏名 森島 済

研究課題		フィリピン・ルソン平原北部における近年の土地利用と環境変化
報告の概要	研究目的 および 研究概要	マニラからルソン平原へは、現在北部ルソンハイウェイによって広く結ばれているが、2000年代に入るまでアクセスはアンヘレスまでに限られていた。このハイウェイが北部の都市ターラックにまで繋がり、さらには南シナ海側のスービックにも達したことで、中心都市マニラへの近接性は大幅に高まっている。こうした背景もあり、これまで農地が主な土地利用形態であった地域においても、特に地方都市を中心として宅地開発が広がっている。また、1990年代から始まった稲作からマンゴーや野菜等への作物への転換は、米の買い取り価格の低迷に伴って、徐々に進行しつつあると考えられる。本研究では、これら近年生じてきた土地利用変化を画像解析と現地調査から明らかにすることを目的としている。
	研究の結果	フィリピン・ルソン平原の主要幹線道路を中心に、特徴的な土地利用の変化を観察した。北部ルソン地域のヌエバエシハ州では、かつて丘陵地を中心として小規模な溜め池灌漑が行われていたが、現在カンタバガンダムから繋がる灌漑用水施設の整備が進められている。現地調査を行ったタルグトゥグでも2018年に農業用水の供給が始まり、2019年3月の調査では今までにない青々とした景観をみせるようになっていた。近年の灌漑整備に伴い早期に二期作へ移行した農家は、それまで周辺農家の田植えや刈り入れなどの季節労働を行う立場から、雇い主へと変化しているともいう。
	研究の考察・反省	農業用水の整備は、乾季において利用されてこなかった土地に収穫をもたらすようになったが、フィリピンでは現在米の輸入が自由化され、ベトナムなどの国から安価な米が大量に供給されている。現地調査を行った時点では、米を生産していた地域であっても、今後別の農作物への転換が図られることも予想される。タマネギ栽培に力をいれているカバナトゥアンでは、タマネギが年末に高価格で取引されることから、乾季に大量に収穫される安価なタマネギを冷蔵倉庫に保管するような取り組みが広がっている。米以外の作物に何らかの付加価値を付け販売していく流れも考えられる。また、一部地域ではかつて農地だった土地に外資系企業によって太陽光パネルの設置が行われていた。農地からの転用も含め、今後は広域的な土地利用変化について、衛星画像等を用いて分析していきたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。  なし	